

## 【第121回生涯教育講座】

高齢者糖尿病診療の新たな視点  
～運動器障害に焦点を当てて～かな ぎわ いっ べい すぎ もと とし つぐ  
金 沢 一 平 杉 本 利 嗣

キーワード：糖尿病，骨粗鬆症，サルコペニア，骨質，骨折

## 要 旨

糖尿病患者の高齢化に伴い骨粗鬆症やサルコペニア（筋肉減少症）などの運動器に関わる合併症の重要性が増してきている。糖尿病に関連する骨粗鬆症では骨質劣化が重要な病態である。骨密度測定のみでは骨脆弱性の過小評価に繋がる可能性を念頭におく必要があり，椎体X線などを含めた包括的マネジメントが重要である。サルコペニアの病態には筋肉へのインスリン作用不足（分泌低下，インスリン抵抗性）などの内分泌環境の変化に加えて，栄養・運動不足やビタミンD欠乏による蛋白合成の低下，炎症性サイトカイン，グルカゴンによる蛋白分解亢進などが関わる。運動器障害を合併するとADLやQOLの低下により糖尿病の増悪にもつながり，さらに生命予後不良にも関連する。したがって，糖尿病における運動器障害を予防，治療するためには血糖管理に加えて各疾患に対する積極的なアプローチが重要と考えられる。

## はじめに

糖尿病診療のゴールは一般住民と変わらない寿命とQOLを確保することにある。超高齢社会を迎えた我が国では，糖尿病に関連して発症しやすくなる老年症候群に注目が集まっており，特に島根県を含む高齢化先進地域では重要な課題となっている。近年，骨粗鬆症とサルコペニアは糖尿病の合併症であることが明らかになってきており，

これら運動器障害に対するアプローチは高齢者糖尿病診療において最も重要な課題の一つである。本稿では，糖尿病患者の運動器障害に関連する骨粗鬆症，サルコペニアの病態や対策について概説する。

## 糖尿病関連骨粗鬆症

骨粗鬆症は骨強度が低下することにより軽微な外力でも容易に骨折をきたし（脆弱性骨折），その後のADL，QOLを著しく低下させる。さらに，骨粗鬆症に伴う骨折受傷後では生命予後が不良であることもよく知られている。

Ippei KANAZAWA et al.

島根大学医学部内科学講座内科学第一

連絡先：〒693-8501 出雲市塩冶町89-1

島根大学医学部内科学講座内科学第一